



干潟は生きている

蒲生干潟の自然

4月号



干潮時の蒲生干潟

4月12日(日)晴天。大潮の干潮時10時頃、約20年ぶりに蒲生干潟と浜辺を訪れました。いい潮の引き具合で一時間ほど散策しました。海水と砂浜としか目には入りませんが、そこには生物の営みが続いているはずです。東日本大震災後どうなっているのでしょうか？



未来に残そう蒲生の自然
 ※帰る時、少しでもゴミを拾ってください。
 中野小学校 杉の子児童会

地域の人たちからもメッセージ！

震災の津波で6.05mの日和山が
 3mに小さくなってしまったけれど、
 踏ん張って残りました。
 だからこそ日本一の称号を再び
 手にすることが出来たんです。
 がんばろう東北、
 がんばった日和山です。
 中野ふらさどYAMA学校

蒲生干潟を訪れる人へ ～日和山からのメッセージ～



鳥獣保護区の中で、特に重要な区域を特別保護地区というそうです。

みんなで守ろう 蒲生干潟
 多くの鳥たちが、休息・食事・子育ての場として利用しています。一生懸命に生きる鳥たちをあたたかく見守りましょう。
 ハマシギ 全長約20cm ウミネコ 全長約45cm
 干潟のアサリ・ゴカイ・カニなどの生きものは、鳥類の食料になったり、干潟の水をきれいにする大事な役割を果たしています。干潟の生きものの採取には十分な配慮をお願いします。
 設置者 宮城県自然保護課
 協力団体 東北地方環境事務所・仙台市 日本野鳥の会宮城支部・蒲生を守る会 宮城緑化サーフユニオン

みんなで守ろう 蒲生干潟
 多くの鳥たちが、休息・食事・子育ての場として利用しています。一生懸命に生きる鳥たちをあたたかく見守りましょう。
 コクガン 全長約60cm
 コクガンの飛来時期(11～3月)は、安心して生活できるように、河口部周辺への立ち入りはできるだけひかえましょう。
 設置者 宮城県自然保護課
 協力団体 宮城県地方環境事務所・仙台市 日本野鳥の会宮城支部・蒲生を守る会 宮城緑化サーフユニオン

仙台湾海浜 県自然環境保全地域
 昭和48年8月17日指定
宮城県
 ふるさとの自然を大切に



国や県、そして諸団体からも蒲生干潟の自然を守っていかうと呼びかけています。

失くしてはならない貴重な自然環境です。見て知ることから始めましょう。

蒲生干潟の植物編



日和山から見るだけでは、海浜に植物が生えている様子は分かりません。津波の被害で生える環境にないと思っていました。しかし、干潟を超えて海浜へ行くと、いろいろな植物が枯れた状態で密生していました。枯れているということはこれから芽吹きの時を迎えます。どんな植物が生えているか見つけましょう。



どうやら海浜植物は、同じ種類が集まってくらし、海から干潟へ向かうにつれてだんだん種類が変わっていくようです。

しかし、その海浜植物の種類の名前がさっぱり分かりません。

下の写真の植物は青く色づいているので、なんとなく分かりそうです。

アシの芽吹いた芽？

3 mまでに生長するとのこと



ハマエンドウ？

まもなく紫の花を咲かせるとのこと



WEBサイトからの
ハマエンドウの画像

干潟付近の海浜植物は、これから青く色づき 5 月以降には花を咲かせるものもあるようです。その頃には海浜植物の名前も分かることでしょう。

蒲生干潟付近の生物編

1. 干潟の生物



潮が引いた干潟を歩いてみると、小さな穴がたくさん見られます。そこは干潟を棲み処にしているカニの巣穴です。干潟には7種類ほどのカニが生息していて、種類によって生活する場所が違うそうです。

静かに巣穴を眺めているとカニがはい出てきます。近づくと別の巣穴へもぐりこみます。巣穴の周には砂だんごがたくさんあります。これは、砂粒についている藻類を食べてしゃぶった跡だそうです。



最後まで読まれた方は、美しい音楽に合わせたかわいいカニのダンスをご覧ください。

2. 干潟付近の野鳥



この日（4月12日）小一時間ほどの滞在で野鳥を観察できたのはわずか6羽でした。至近距離で撮影できるかと期待していましたが、野鳥だけあって人の気配を感じると遠ざかっていきました。

野鳥の名前は分かりませんでした。白い鳥は「コサギ」か「チュウサギ」でしょう。



余談



仙台湾は隠れたサーフィンスポットです。仙台新港と蒲生干潟の間に専用駐車場があります。その前でサーフィンをしています。この日は30人ぐらいでした。

湘南のサーファーは「仙台はサーフィンの他に冬はスキーが近くで楽しめていいですね」とつぶやいていました。



蒲生干潟付近の海浜のアシ原？



近所の砂押川の河原



蒲生干潟付近の海浜と砂押川の河原の様子を比べてみましょう。違いが2つあります。①蒲生干潟付近の海浜には枯れたアシ？はなく、新芽が芽吹いています。砂押川の河原にはアシが枯れたままで、新芽はまだ芽吹いていません。②蒲生干潟の野鳥は人目を避けて遠ざかりますが、砂押川の野鳥（ハクチョウやカモ類）は人を見ると近づいてきます。餌に関係がありそうです。アシも野鳥も生育環境の違いが影響しているようです。

今回の散策で、震災後の蒲生干潟は少しずつ元の姿に戻ろうとしていることがよく分かりました。しかし、海浜植物や干潟の生物の名前がさっぱり分かりません。名前を知ることから始めたいと思います。

次回は青づいた海浜植物やたくさんの野鳥を観察できることを期待しています。